

Drupal 最新情報

株式会社アウトソーシングテクノロジー
Drupal & HTML5 推進室

西尾正博

<http://www.ostechnology.co.jp/>

2017/05/26

Web サイト全体における主要 CMS のシェア動向

2017 年 5 月現在、CMS を使っていない Web サイトはまだ半分以上。WordPress の比率は 28 % 台に達した。WordPress は Drupal の 12.8 倍。

	2016 1 Jun	2016 1 Jul	2016 1 Aug	2016 1 Sep	2016 1 Oct	2016 1 Nov	2016 1 Dec	2017 1 Jan	2017 1 Feb	2017 1 Mar	2017 1 Apr	2017 1 May	2017 29 May
None	55.6%	55.6%	55.4%	55.1%	54.7%	54.0%	53.5%	53.3%	53.2%	53.1%	52.9%	52.7%	52.5%
Word Press	26.4%	26.4%	26.6%	26.6%	26.7%	27.0%	27.2%	27.3%	27.4%	27.6%	27.7%	27.9%	28.1%
Joomla	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%
Drupal	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%

出典 : W3Techs (詳細は次ページを参照)

Historical trends in the usage of content management systems for websites
https://w3techs.com/technologies/history_overview/content_management/all

出典情報

W3Techs

W3Techs はオーストリア・ウィーンにある Q-Success 社の提供するサービスの1つ (W3Techs 自体は会社名ではないので注意)。調査には米 Alexa 社のデータに基づくトップ 1000 万サイトを使用。実際には Alexa 社よりも多くのサイトをクロールしているとのこと。

Alexa

インターネット データの計測・解析などを行う Amazon 傘下の会社。Amazon Echo の Alexa とは全く別物なので注意。

<http://www.alexa.com/>

ウィキペディア「アレクサ・インターネット」

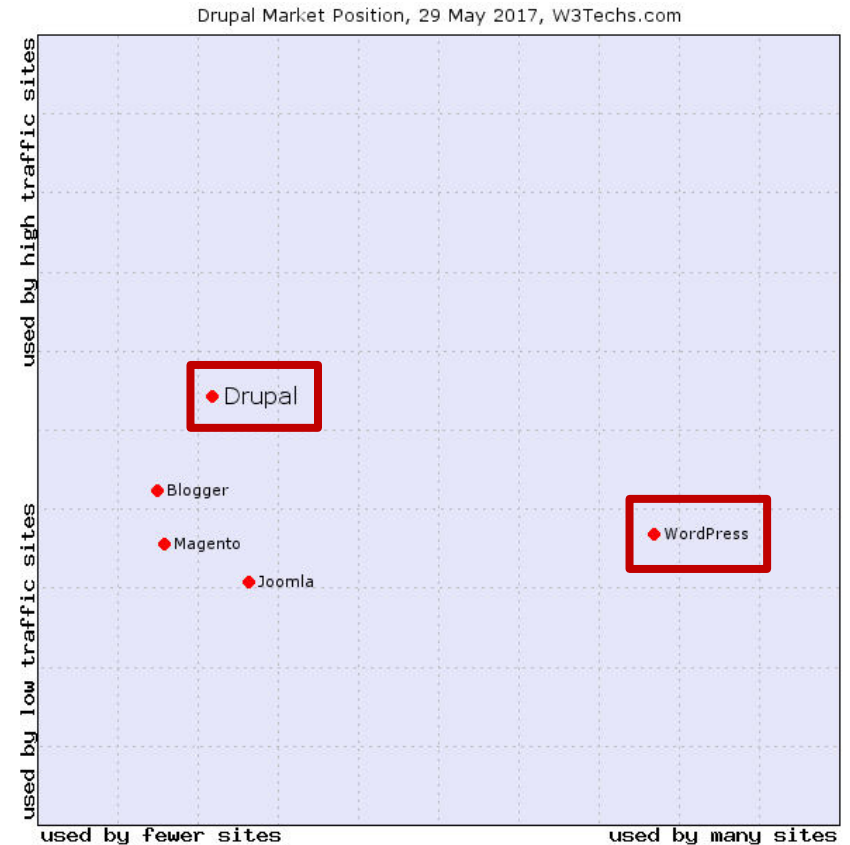
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%AC%E3%82%AF%E3%82%B5%E3%83%BB%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%8D%E3%83%E3%83%88>

Markezine: 「Alexa (アレクサ) とは何か」

<http://markezine.jp/article/detail/829>

Drupal と WordPress — 市場の棲み分け

WordPress は使用サイト数が多いのが特徴。
それに対して Drupal の特徴はサイトの規模が
大きいこと（トラフィック量が多い）。



出典 : W3Techs

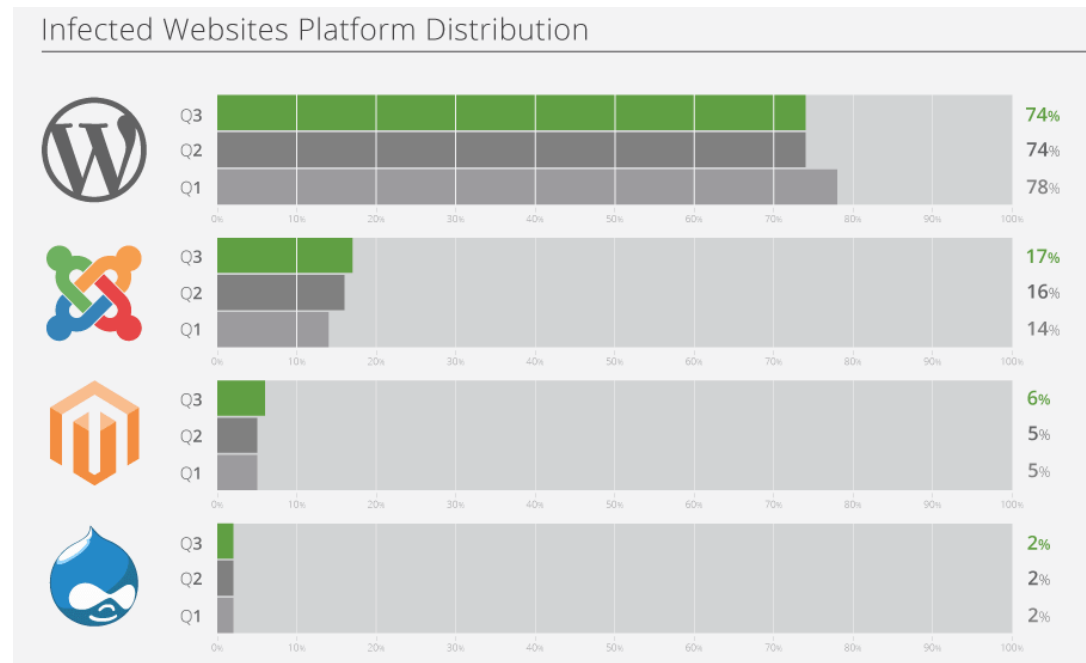
Drupal Market Position

<https://w3techs.com/technologies/details/cm-drupal/all/all>

感染した Web サイトプラットフォームの分布図

4 半期ごとの値をいくつか並べても、各プラットフォームの比率と順位は変わらない。

WordPress は Drupal の 37 ~ 39 倍。



出典 : 米 Sucuri 社

Sucuri's Hacked Website Trend Report Q3 2016

<https://sucuri.net/infographics/report-q3-2016>

TheWeeklyDrop は Drupal 関係のニュースをまとめて週に 1 回、メールで配信してくれるサービス。

<http://www.theweeklydrop.com/archive/issue-291>

今週のトップ記事 3 つの要約：

- **Drupal 8.4.x が Media エンティティーに対応**

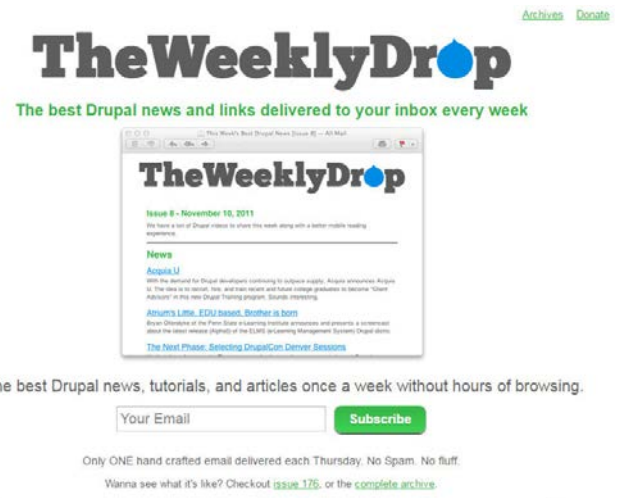
「メディア サポート機能の第 1 ステップが Drupal 8.4.x のコアに入った。ベータの試験的なモジュールである Media は、さまざまなタイプのメディアの保管・保持をサポートする。Drupal コアはすでに一般的なファイルと画像のアップロードに対応しているが、この新しいモジュールはアセット（素材）の再利用をサポートし、ビデオ、リモートメディア、埋め込みなどにも対応するよう拡張できるようになる予定」

- **Drupal 8 における JavaScript をモダンにする**

「我々は Drupal コア開発用の JavaScript を ECMAScript 6 (ES6) に移行することで現在の潮流に合わせようとしている。ES6 は JavaScript のメジャー アップデートで、数十の新機能が採り入れられている。コントリビューター（貢献者）が ES6 へと移行するには新しいワークフローを使用しなくてはならない予定。詳細は変更記録（change record）を参照」

- **コアにおける CSS リントは Stylelint に入れ替わる**

「Drupal コアは CSS リンティングに Stylelint を使うよう移行を進めている」



デイヴ ホール氏のブログより

DrupalCon の開催前に公開された、Drupal の方向性について話し合おうという趣旨のブログ記事。

<http://davehall.com.au/blog/dave/2017/04/19/drupal-we-need-talk>

ホール氏はコミュニティー歴 10 年を超え、多数のプロジェクトに 450 を超えるコミット（貢献）をしてきたドゥルーパリスト。「Drupal 8 の PHP フレームワークに Symfony が採用されたのは僕が悪い」と語る（ファイザー製薬の Dick Olsson 氏と 2 人で Zend と Symfony の両フレームワークを比較し、結論として Symfony に軍配を上げたため。

<https://groups.drupal.org/node/167299>）。以下、要約。

「僕たちは最盛期を過ぎた Drupal の世界にいる。Drupal は D8 開発サイクルの途中でピークを越えた。『勢いがなくなった』と感じている何人もの人と話をした。DrupalCon の参加者は 2014 年に最も多かった。Google の表示回数は 2009 年のレベルにも戻っていない。コアのダウンロード数は 2015 年から減少傾向にある。この事実を受け止め、これが将来の Drupal にとって何を意味するかについて話し合う必要がある。

Drupal 8 の開発にかかった 5 年の間にソフトウェア アーキテクチャーの世界には根本的な変革があった。D8 が単独で何でもこなそうとするアプリケーションであるのに対して、今では、何種類ものマイクロ サービスなど複数のフロントエンドを備えたアプリケーションを使う方が一般的になっている。D8 が普及しない理由はたくさん聞いたが、D8 は D7 ほどの人気は出ないだろう。問題があると認めることは短期的に痛みを伴うが、話し合わなかったら Joomla と同じように衰退の道をたどることになる。

Drupal がマイクロサービスの集合体になるとは思わない。しかし、もっとモジュール化する必要があると思う。機能をカットし、コンポーネントを分離する。初心に戻ると同時にモダンにすることだ。Drupal はコンテンツ管理システムとしてやってきたわけで、コンテンツ配信システムである必要はない。これは分離型（ヘッドレス）Drupal を超えた話であり、Drupal はコンテンツの作成と管理のためのプラグ可能なワークフローを備えた「コンテンツ ハブ」になるべきだ。

Drupal 9 はどうあるべきだろうか？話し合おう」

ドリース バイテルト氏のブログより

- **Acquia の次の段階** (5/23)

<http://buytaert.net/acquia-next-phase>

Acquia 社の CEO トム エリクソン氏が辞意を表明。今後も取締役会には残るものの、後任が見つかったら CEO を退く予定。バイテルト氏は今後、プロダクト戦略、プロダクト開発、テクノロジー パートナーシップ、企業買収、人事の一部などを担当。エリクソン氏は（当面）セールス、マーケティング、カスタマーサクセス、全般的な統括業務を担当。

- **フリダクション：摩擦をなくそうとするインターネットの勢いは止まらない** (5/18)

<http://buytaert.net/friduction-the-internets-unstoppable-drive-to-eliminate-friction>

「インターネットは 90 年代初頭から不要な仲介者を排除してきた。書店、写真屋、旅行代理店、株式ブローカー、銀行の窓口業務員、レコード店などは、その例のごく一部に過ぎない。こうした、システムからカスタマー体験における「摩擦」を減らすことを僕は「フリダクション（friduction = friction reduction）」と呼んでいる。

オープンソースとクラウドコンピューティングソリューションも旧来のアプローチから摩擦を取り除いた。オープンソースならデモ版をダウンロードしたり、購買手続きを踏んだりする必要もない。商用ライセンスによる制限もない。クラウドコンピューティングなら、利用者はあらかじめ設備投資する必要もないし、使った分だけ払えばいい。

僕たちは Web サイトがクロスチャネル体験へと進化する世界に向かっていて、フリダクションは長期的なトレンドだ。Web サイト、IoT、AR、VR、対話型 UI はどれも成長していくだろう。というのも、それらはどれも、摩擦の少ない（よりシームレスな）デジタル体験を構築させてくれるからだ」